

甲状腺外科草子 54 (承前)

静かなる田原坂

杉野 圭三

好天の秋、田原坂を訪れた。鹿児島本線の田原坂は静かな無人駅で降りる人は少なく、アクセスの悪い場所である。



田原坂西南戦争資料館



弾痕の残る家



田原坂慰霊碑



同崇烈碑

西南戦争資料館には貴重な物が多く展示され、外には慰霊碑や美少年像などもあり、周囲の山や岡の全てが当時の戦場であった。

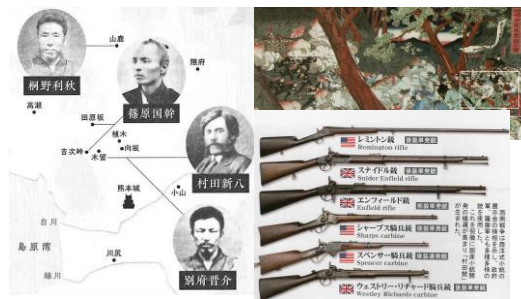


美少年の像



政府軍と薩摩軍の陣地跡

薩摩軍はこの地に陣を構え、**桐野利秋** (1839-1877)、**篠原国幹** (1837-1877)、**村田新八** (1836-1877)、**別府晋介** (1847-1877) らを配した。



田原坂布陣図 鹿児島新報 (右上)、使用銃 (右下)

勇猛果敢な薩摩軍は最新式の小銃や大砲を装備し、示現流による斬り込み戦術も駆使し政府軍に多大な損害を与えた。**乃木希典**少佐 (当時) が指揮する第14連隊は向坂の戦いで象徴である連隊旗を奪われる屈辱を受けた。



乃木希典 (1849-1912)



歩兵第14連隊旗 (レプリカ)

薩摩軍の斬り込み戦術に対抗するため政府軍は薩摩出身者だけでなく旧士族からも広く剣術に優れた兵や警察官を集め、**警視抜刀隊**を組織し、薩摩軍と白兵戦を行った。**鬼官兵衛**と呼ばれた会津藩の**佐川官兵衛**大警部 (1831-1877) も警視抜刀隊を指揮、南阿蘇村黒川で戦死。辞世の句は、「君が為 都の空を打ちいでて 阿蘇山麓に身は露となる」



佐川官兵衛 大山巖 野津道貫 立見尚文

政府軍には、薩摩・長州出身者、旧幕府軍兵士など多数が従軍し、後に日露戦争を指揮する**大山巖**総司令官 (1842-1916)、第4軍**野津道貫**司令官 (1841-1908)、第八師団**立見尚文**司令官 (1845-1907) などの顔もある。立見尚文 (鑑三郎) は**桑名藩雷神隊**を指揮し、勇猛果敢な名将と評価され、黒溝台会戦で活躍した。

1877年2月22日の向坂の戦いから、木葉、高瀬、山鹿、吉次峠、田原坂の戦いまで約1か月間の死闘の末、薩摩軍は退却した。政府軍死者は田原坂のみの17日間で約2400名とされ、同胞相撃つ激戦地である。

雨は降る降る 人馬(陣羽)は濡れる
越すに越されぬ 田原坂 (熊本民謡)

西南戦争全体の死者は政府軍6,403人、薩摩軍は6,765人にも及んだ。前途有望な若者を犠牲にした痛恨の内戦であった。

傷つきて 退く兵に 菊一輪 (凡人です!)

参考文献:

田原坂1-8 (熊本市文化財課発行)

戦況図解 西南戦争、サンエイ新書

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2023年2月1日